

統合新校の位置について（たたき台）

統合新校の位置については、教育委員会の諮問及び「一定規模・適正配置の基本方針」の「適正配置の基本的考え方」等をふまえ、次の観点を考慮すべきと考える。

1 一定規模の確保の観点

- 統合新校の児童をより多く確保するため、隣接する多摩第二小学校区等からも、選択制等で児童が通って来やすい配置を考慮する。
- 統合新校児童の学区外通学をできるだけ防ぐため、児童が比較的多い学校、または児童分布が比較的高い地区の学校位置を考慮する。

2 通学距離及び安全確保の観点

- 子どもの負担や防犯・交通両面での安全確保等の観点から、通学距離はなるべく短く設定できるよう考慮する。具体的には、児童の最長通学距離のみならず全児童の総通学距離、高低差、道路の横断などを考慮する。
- 通学路となる歩道の整備状況や管轄、見通し、人通りや車の交通量、見守りなどについて、今後の環境整備を含めて、総合的に考慮する。

3 地域コミュニティの観点

- 東・西愛宕小学校の学区は、市のコミュニティエリア上は、同一地区に属することから、地域コミュニティの観点では、東・西愛宕小学校いずれの学校位置でも大きな差異はない。

4 1中複数小の確保

- 小・中学校の通学区域は交友関係や地域との結びつきなどから整合性をもたせることが望ましく、1中2小が望ましい。今回の統合では、小・中学校の学区関係は変更しないので、1中複数小の観点からは、東・西愛宕小学校いずれの学校位置も大きな差異はない。

5 学校施設の活用

- 今回の統合は、東・西愛宕小学校のいずれかの施設を活用する考えであり、現行の学校施設を活用する観点では、どちらの学校位置も大きな差異はないが、学校の立地条件や施設・設備の整備状況、特別支援教室の設置状況、校舎と校庭のレイアウト等の面では、実際の活用にあたっての相違点がある。

6 魅力ある学校づくりの観点

- 諮問された「統合新校の教育を充実する施策」については、魅力ある学校づくり（後述）が必要と考えており、その中で「特別支援教育の更なる充実」や、「小中の連携教育の推進」等を挙げており、魅力ある学校づくりの観点では、現在東愛宕小学校設置されている通級学級や、今後設置を期待している固定学級の設置場所、並びに小中連携教育を推進する上での中学校との連携のしやすさなどを考慮する。